

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100240		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームひょうたん島		
所在地	佐賀市久保田町大字久富2852番地		
自己評価作成日	平成27年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月10日	外部評価確定日	平成28年3月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の健康管理、疾病予防、発病時の対応については、関連医療機関との連携により万全を期しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>周辺には田畑も多く、長閑な住宅地の中に建つ事業所である。開設から丸3年が経ち、地域との交流も深まりボランティアの訪問も増えている。利用者の想いに寄り添ったケアに努め、少人数の事業所ならではの利点を活かしている。利用者が年を重ねるごとに体力の低下は否めないが、例えば車椅子使用の場合、利用者は自分が出来る方法で移動をし、介助は最小限に止められている。このように普段の生活の中でごく自然に体を動かし、残存能力が活かされている支援は利用者にとって自信となり笑顔に繋がっているのが感じられる。また、管理者は地域密着型サービスへの関心が高く、様々なことを学びながら経験を積み同法人の別事業所からの異動である。責任ある者として、まず自分が行動すること、職員と一緒に汗をかくことを実践している。その想いに応えている職員のチームワークの良さが、明るく働きやすい職場環境となっている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議で理念を繰り返し伝え、全職員が共有し実践できるようにしている。	理念は開設時の職員達が独自に作り上げたものである。あえてリビングの中央、洗面台の上に掲示することで、職員はもちろん訪問者の目にも付きやすくし、静かに想いを表明している。利用者の立場に立って、利用者との信頼関係を築きながら日々のケアに努めている姿勢にはそれが活かされているのがうかがえる。更なる意識付けとして、職員会議において理念に基づいた事例の発表も検討中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中で挨拶をしたり、声かけを行っている。また、回覧板などに記載されている町内の催事に参加やボランティア慰問の受け入れを行っている。	自治会に加入し、回覧板から地域の情報も入る。住民の清掃活動等にも積極的に参加している。地区の行事や催し物にも利用者と共に参加している。会場で聴いた大正琴演奏を事業所でも、というひらめきは自治会長の力添えもあり、ボランティア来所という形で実現することができた。散歩で出会う方々とも挨拶を交わし、近所同士として親近感も持ってもらえるよう努めている。ホーム独自の行事で近隣住民を招くことはないが、リビングのガラス越しに、前を通る小学生と手を振り合ったり、時には話をするひとときが利用者の活力にもなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で認知症の人の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に開き、当施設の取り組みについて報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議は外からの意見が聞ける貴重な機会であると捉え、1時間弱ではあるが有意義なものとなるよう努めている。市担当者は代理でも参加をし、メンバーの出席率は良い。それぞれの立場から活発な意見交換の場となっている。会議が一段落した雑談の中に貴重な意見が混じることもあり、管理者は真摯な態度で傾聴している。ボランティア訪問や、防災訓練に地域住民の参加をお願いしていく件もこの会議に諮られている。家族の出席は毎回違う方に依頼し、皆が関わられるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接に連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	運営推進会議のメンバーでもあり日頃から顔なじみである。相談事も言いやすく、電話を掛けることも多いが、直接会って話している。現在は事業所に空きがあるため利用者紹介の依頼もしている。実直に対応してもらえる関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。身体拘束はない。	全ての職員は身体拘束の内容とその弊害を理解している。書類に明記され入居時には説明も行っている。玄関に施錠はなく、チャイムやセンサーの設置もない。利用者の動きは職員に見守られ行動を抑えられることなく安全に過ごしている。また、研修は法人内外であり、受講した職員は勉強会等を通して全員に周知を図るようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	家族が訪れた際にはまず最近の様子を伝え、そこから意見や想いが汲み取れるよう努めている。ご意見箱を置いてはいるが、直に会話することを大切にしている。なかなか来所できない家族には、週1回は定期連絡として電話を掛け、何でも話してもらえるよう配慮している。家族から、オムツでもトイレでの排泄を支援していることに対し感謝されたことは職員の励みとなっている。また、事業所の外に苦情や相談窓口があることは書類に明記され説明も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	月1回の職員会議には休みの職員も出席し、同日の昼夜で2回開いている。昼は通達事項や話し合いが必要な事案など、夜は勉強会や研修報告がメインである。会議資料を前もって配付しておくことで職員も考えがまとめられスムーズな流れとなっている。最近の事案では、利用者が自ら動くことの大切さと待つ見守りのあり方を、掃除を例に話し合い、実践に移している。管理者として日頃から職員の声に耳を傾け、まず自分が動いてみせることでリーダーシップも発揮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合には、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者様の得意分野のことを教えていただき、入居者一人一人が活躍する場面を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会など、行事への参加を声かけし、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力してもらって、馴染みの場所や関係の継続に努めている。	入居までの人間関係は、家族や担当のケアマネジャー、利用していた施設等からも話を聞き把握に努めている。本人から希望を口にすることが少ないため、情報を共有し支援に活かしている。職員と一緒に年賀状を書くこともその例である。お正月、お盆などに家族が外出を希望すれば支援の用意がある。また、理美容院は同法人施設に来る訪問理美容を利用しており、家族の了承を得て職員が付き添っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士の交流を促すため、席順等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば支援を行う。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	職員は利用者と同じ目線で、時には方言も交えながら話し相手をしている。利用者から一番思いが聞けるのがそんな時間である。利用者の意思を尊重し判断を委ね、職員は待つ姿勢で寄り添いながらの把握である。それらは個別記録簿に記し共有され、介護計画へ反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	本人の思いや日頃のケアでの気付き、家族の意見も踏まえながら介護計画は作られている。なかでも体力や機能の維持は望まれていることであり、母体病院にリハビリテーション科があることは心強い。筋力維持のためトレーニングバンドを使った運動などは日課として行っている。また、全てを介助するのではなく、見守る支援も機能維持へと繋がっている。計画の見直しは設定期間ごとではあるが変化があればその都度、臨機応変に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心がけている。細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、運営推進会議に地域の自治会長や民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	入居時に協力医への変更をお願いしている。協力医であれば往診もあり、事業所の母体病院でもある体制を説明することで理解が得られている。往診以外の受診には職員が付き添い、変化がなければ、それらの結果は来所時などに報告されている。状況に応じて希望する医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院にむけた話し合いを行う。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	これまでに看取りの経験がある。事業所としての力量なども問われるところだが、管理者が前任部署で経験してきた事が職員をサポートし、不安解消にも活かされている。今後も希望があればその用意はある。家族とは状況が変わるごとに何度も話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を行っている。訓練については、夜間を想定した訓練や消防署の指導の下での訓練も行っている。	年2回、消防署や専門業者の立会いで避難訓練を行っている。休みの職員も参加し、利用者に見立てた人形を使い避難経路を確認している。夜間は想定のみで昼間の訓練である。自宅が近い職員も数名おり、緊急時には駆けつける手筈になっている。職員は消火器や火災通報装置の使い方も承知している。非常食や水の備蓄もあり、母体病院への避難は家族にも周知されている。訓練での注意事項や指摘は全員がその場で聞け、記録としてもきちんと整理されている。今後、近隣住民の参加や職員のための夜間体験(周囲の明るさ、暗がりでの段差など)も検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」ということを機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	年長者として敬意を払い、もし不適切な場面に遭遇すれば速やかに別室で注意をすることになっている。入浴介助等で羞恥心への配慮も守られている。また、ホーム便りへの写真掲載や事業所内での掲示についても入居時に説明をし承諾を得ている。職員の個人情報に対する意識は高い。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識してつくり、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりを優先するのではなく、入居者の気持ちを優先にしたケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりに整容道具を用意しており、職員も個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人、外部の理容室を利用する人など、希望に応じて援助している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	同法人の栄養士が作成する献立で、栄養価も計られている。利用者に食べたいものを尋ねた時には栄養士に伝え献立に加えてもらっている。食材は法人で一括購入し届けられている。利用者の好き嫌いやアレルギーも把握しており、献立によっては個別に対応している。食事は職員も同じものを食べながら、利用者がゆっくりと自分で口へ運ぶ傍でさりげなく介助をしている。誕生日は当日に皆でお祝いをし、おやつ等で配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	日中は出来るだけトイレでの排泄を支援している。利用者の中には自立した方もいるが、任せたままでではなく、さりげない見守りを行っている。パターンを把握したケアによりオムツからリハビリパンツへ改善した例もある。夜間はオムツ使用でも、トイレへ起きる方がいれば付き添い介助している。便座の両側にある手摺りは立ち座りを補助し、トイレでの排泄を助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日3時にティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、四肢の運動や散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入居者の要望によっては18時まで対応し、時間も本人のペースを尊重している。	入浴日は週の前半と後半に決めてはいるが希望があればいつでも可能である。時間帯も自由になっているが午前中に入る利用者が多い。脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守りながらの支援である。浴室は滑り難い材質の床で、シャワーチェアもゆっくり使える広さである。大きな浴槽には階段があり、そこを使いながらお湯への出入りが出来る。時には入浴剤で変化もつけ、拒む方にはタイミングをずらしたり清拭で対応することもある。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、洗濯物を干したり、畳んだり、食事の声かけなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の心の安心を図る場合もある。	事業所周辺への散歩は、その日の天候や体調をみながら日常的に行っている。車椅子使用者が増え、散歩が一人ずつ交替になることもあるが、外の空気に触れてもらい出会った方々と挨拶を交わすひとときを大切な時間として支援している。遠出には車椅子対応車を使い、人数によっては法人の対応車を借りることもある。職員は、戸外に出ることが五感の刺激や睡眠の誘導にも繋がることを理解している。時には拒まれ次回になる方もいるが、全く戸外へ出ないという利用者はいない。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1000円程度の買い物を一人で介護者一人付いて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を手作りで作成し、居間には手書きのカレンダーを設置して季節感を感じられるよう、家庭的な雰囲気に配慮している。	開設から丸3年目で建物はまだ新しい。落ち着いた色調と、窓や詰め込みガラスで開放的なデザインになっているリビングでは利用者が日中の殆どを過ごしている。中庭を囲むようにある廊下に障害物はなく、車椅子を自分で操作する利用者もスムーズに通っている。季節を感じられるように手作りお雛様や皆で作った貼り絵も飾られている。日差しはロールカーテンで調節され騒音もない。浴室やトイレはきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共用空間を広くとり、応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くとり、家具などの持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真など、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室に持ち込む品物には火気等の危険物以外に制限はない。使い慣れた物を置き、落ち着いて過ごせるよう支援している。位牌を持つ方には職員が水などを供えている。担当職員を決めており、居室の飾り付けや衣替え等にも配慮している。掃除は職員が行うが、出来る事で手伝う利用者もいる。また、希望があれば家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台なども適当な高さに完備している。物干し場もバリアフリーになっており、浴室の床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない